

2023～ 高齢者福祉研究Ⅱ (認知症ケア研究)	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	SR	1・2年
	担当教員	加藤 伸司	

■授業のテーマ

加齢に伴って起こる心理学的変化、認知症の原因疾患と心理的特徴、パーソンセンタードケアの基本的な考え方、介護家族の特徴と支援の在り方を理解する。また認知症のアセスメント技法を学び、その効用や限界について理解する。

■授業の目的

社会福祉及び福祉心理学領域における高齢者支援の実際を社会福祉及び心理学の視点から理解し、アセスメントや援助技法などを修得する。

■授業の到達目標

- ・ 高齢者心理学及び近接領域のこれまでの研究成果を理解し、エビデンスに基づく理論的な考え方を説明できる。
- ・ 認知症のアセスメントの技法を理解し、認知症の人を対象にした簡便なアセスメント技法を習得し、応用できる。
- ・ 認知症の人に対するケアの理念であるパーソンセンタードケアの考え方を理解し、説明できる。
- ・ 認知症の人および介護家族の思いを理解し、支援に役立てることができる。

■授業の概要

高齢者心理学及び近接領域で取り組んできた課題について基本的な理解を深める。具体的には「感覚・知覚機能の変化」「反応の変化」「注意の変化」「記憶の変化」「知的機能の変化」などの心理学的変化を系統的に学び、高齢者に対する心理学的な理解を深めていく。これらのテーマを基本的に理解したうえで、認知症の原因疾患別の特徴と、認知症ケアの理念であるパーソンセンタードケアの考え方を学び、支援にあたっての基本姿勢を身に着ける。さらに認知症のアセスメント技法について学び、アセスメントの実施方法だけではなく、結果の考え方を理解し、実際に応用できる知識を習得する。最後に認知症の当事者と介護家族の思いを理解し、当事者や家族の視点に立った支援につなげることができるようになる。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題1 (事前課題)	認知症の原因疾患について、興味のあるものを1つ選び、その原因と臨床的特徴などについて触れ、認知症の人に対する心理的支援について自分の意見を交えて考察する。	【提出期限】 <input type="checkbox"/> 対面授業1週間前まで <input type="checkbox"/> 対面授業前日まで <input checked="" type="checkbox"/> その他 (対面授業当日まで)
課題2 (事後課題)	認知症のアセスメント技法について、自分の興味のあるものを選択し、その使用目的、実施方法、結果の判定方法についてまとめ、アセスメント結果の活かし方を含めて自分自身の意見を交えて考察する。	【提出期限】 <input checked="" type="checkbox"/> 対面授業後1ヶ月以内 <input type="checkbox"/> 受講年度の最終レポート受付日まで <input type="checkbox"/> その他 ()

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

(2) アドバイス

課題1 アドバイス

学修テーマ8～11の内およびスクーリング授業の5、6のオンデマンド授業を参考にまとめる。出現頻度が最も高いのはアルツハイマー型認知症、次いで血管性認知症の順になるが、近年ではレビー小体型認知症も増えており、前頭側頭型認知症は若年期に発症することも多く、対応に苦慮する認知症である。この4つの認知症の中から興味のあるものを1つ選択し、レポートをまとめる。原因と臨床的特徴をまとめるだけでなく、その疾患に対する心理的な支援の在り方についてまとめる。資料やテキストを参考にまとめるが、必ず自分自身の考え方や意見を取り入れて考察することが大切である。

課題2 アドバイス

学修テーマ8～11の内容およびスクーリング授業の5、6のオンデマンド授業を参考にまとめる。スクーリングでは、HDS-Rを中心に解説するが、MMSEや他のアセスメントをテーマに取り上げても良い。アセスメントの使用目的、使用方法、結果の判定方法についてまとめるだけでなく、必ずそのアセスメントに対する自分自身の感じたことや意見を交えて考察することが大切である。

(3) 在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	感覚・知覚機能に及ぼす加齢の影響	視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚	テキスト1を参考に感覚や知覚に及ぼす加齢の影響について学ぶ。
2	反応時間や反応の種類に及ぼす加齢の影響	単純反応、選択反応、反応エラー	テキスト1を参考に反応時間や反応の種類の変化について学ぶ。
3	注意の変化	持続注意、分割注意	テキスト1を参考に加齢が注意にどのような影響を及ぼすかについて学ぶ。
4	記憶に及ぼす加齢の影響	記憶のモデル、記憶の種類、加齢	テキスト1を参考に加齢が記憶機能にどのような影響を及ぼすかについて学ぶ。
5	知的機能に及ぼす加齢の影響	知能低下、流動性知能、結晶性知能、終末低下	テキスト1を参考に加齢が知的機能にどのような影響を及ぼすかについて学ぶ。
6	加齢に伴う心理学的変化	加齢に伴う心理学的変化	1～5で学んだことをスクーリングのオンデマンド授業を視聴して理解を深める。
7	認知症の実態	出現率、MCI	認知症の出現率、正常加齢とMCIの相違について学ぶ。
8	認知症の原因疾患の理解と心理的特徴①	アルツハイマー型認知症	テキスト2を参考にアルツハイマー型認知症の原因と臨床的特徴について学ぶ。(レポート課題1)
9	認知症の原因疾患の理解と心理的特徴②	血管性認知症	テキスト2を参考に血管性認知症の原因と臨床的特徴について学ぶ。(レポート課題1)
10	認知症の原因疾患の理解と心理的特徴③	レビー小体型認知症	テキスト2を参考にレビー小体型認知症の原因と臨床的特徴について学ぶ。(レポート課題1)
11	認知症の原因疾患の理解と心理的特徴④	前頭側頭型認知症	テキスト2を参考に前頭側頭型認知症の原因と臨床的特徴について学ぶ。(レポート課題1)
12	認知症の症状の理解とパーソンセンタードケアの理解	中核症状、BPSD、パーソンセンタードケア	テキスト2を参考に中核症状とBPSD、パーソンセンタードケアの基本的考え方についてスクーリングで学ぶ。
13	認知症のアセスメント	HDS-R、MMSE、行動評価尺度。	テキスト2、3を参考に認知症のアセスメントについてスクーリングで学ぶ。(レポート課題2)
14	認知症高齢者の介護家族の理解と支援	介護家族、家族支援	介護家族の状況とストレス、具体的な支援方法についてスクーリングで学ぶ。
15	認知症の人と当事者に学ぶ	心理的状況、支援者への望み	スクーリング時に当事者と家族の映像を視聴し、当事者と家族を理解する。

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題(学修時間目安:24時間以上)

- ・事前課題は、学修テーマ8～12の内容を学修し、まとめる。

- ・スクーリングのオンデマンド授業は、対面・リモート授業日の1カ月前から配信する。
- ・スクーリングのオンデマンド授業及び対面 or リモート授業にあたっては、事前に資料を作成するので、各自がダウンロードしてスクーリングに臨む。
- ・スクーリングの5～6のオンデマンド授業を視聴し、参考にする。
- ・レポート課題1は、スクーリングの7の対面・リモート授業の日までに提出する。
- ・レポートは、4,000字程度でまとめ、レポートの最後に（4,025字）のように記載する。

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	感覚・知覚機能に及ぼす加齢の影響	オンデマンド
2	反応時間や反応の種類、注意に及ぼす加齢の影響	オンデマンド
3	記憶に及ぼす加齢の影響	オンデマンド
4	知的機能に及ぼす加齢の影響	オンデマンド
5	認知症の原因疾患の理解と心理的特徴①	オンデマンド
6	認知症の原因疾患の理解と心理的特徴②	オンデマンド
7	認知症のアセスメント	対面orリモート
8	認知症の人の症状の理解とパーソンセンタードケアの理解	対面orリモート
9	認知症高齢者の介護家族の理解と支援	対面orリモート
10	認知症の人と当事者に学ぶ	対面orリモート

(3) スクーリング事後課題（学修時間目安：6時間）

- ・事後課題は、学修テーマ13及びスクーリング授業計画8（対面 or レポート）の内容を学修し、まとめる。
- ・レポート課題2は、スクーリング終了後1カ月以内に提出すること。
- ・レポートは、4,000字程度でまとめ、レポートの最後に（4,025字）のように記載する。

■評価の方法・基準

- ・スクーリング参加とスクーリングの事前・事後課題を合わせて評価する
- ・スクーリング（参加度と積極性40%）
- ・課題1レポート（30%）、課題2レポート（30%）

■参考文献（*印=大学から送付される必読図書）

- *1) 加藤伸司編著 『発達と老化の理解』 介護福祉士養成テキストブック10 ミネルヴァ書房、2010年
- *2) 認知症ケア学会編 『認知症ケア標準テキスト 改訂5版・I 認知症ケアの基礎』 ワールドプランニング社、2022年
- *3) 大塚俊男・本間昭監修 『高齢者のための知的機能検査の手引き』 ワールドプランニング社、2016年
- 4) 加藤伸司・長谷川和夫著 『改訂長谷川式簡易知能評価スケールの手引き』 中央法規、2020年